



社会福祉法人 蓮花の会 令和2年度 事業報告

基本理念

生まれ育ったこの町でこの町のみなさんと一緒に暮らしていきたい（生きたい）と願う当事者家族の思いに寄り添い、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりを目指し地域福祉の向上に貢献します。

運営理念

ひとりひとりの個性と可能性を尊重し、住み慣れた地域の中で安心・安全で快適な暮らしができるよう、心かよいあう安定した福祉サービスの提供のために、法令を遵守して健全な法人運営に努めます。

<重点目標>

1 法人理念の浸透

毎朝のミーティング前に基本理念・運営理念及び7項目のスタッフの誓いの唱和を行い法人理念の浸透に努めました。ほとんどの職員が概ね暗唱できるようになり、法人理念及び7項目のスタッフの誓いを基に作成した各サービス事業所理念の実行に努めました。

2 福祉人材の育成

「人材の確保」・「定着」・「育成」の視点で、人事評価制度の見直しに取り組みました。職員の視点に立った人事評価項目を導入し、職員全体で、より効果的な成果を確認できる人事評価シートの作成に取り組みました。職員自身が「理想とする職員像」「評価したい職員像」などを考えて話し合い、顧問社会保険労務士をコーディネーターとしてみんなで納得のできる人事評価シートを作成中です。完成は、次年度につなげます。

3 法令遵守

福祉サービスの各事業所は、専門職等の人員配置基準を守り、個別支援計画作成の手順を再確認して職員全体で作成状況を把握しました。介護給付費等の請求事務については、チェック体制を強化して誤請求の防止に努めました。

4 啓発・広報

年間2回「蓮の実ニュース」を発行して各事業の活動等の報告を行いました。新型コロナウイルス感染予防のため、外部へ向けた活動には制限がありましたが、法人のホームページのブログを活用して行事の紹介や利用者の活動の様子などを公開しました。その際には、個人情報の保護にも注意を払い、保護者からは「言葉で伝えることのできない子どもの活動の様子や支援の様子がわかる」などの好感を得ました。

5 組織機能の強化

改正社会福祉法に基づいた理事会・評議員会・監事監査会等を適正に開催し、組織統治体制を整備しました。また、税理士、社会保険労務士等の専門家によるチェック及び相談の体制の充実に努めました。

6 法人運営

- | | |
|-----------------|--------------------|
| ① 理事・監事会の開催 計4回 | ② 評議員会の開催 計2回 |
| ③ 監事監査会の開催 計1回 | ④ 評議員選任・解任委員会 開催なし |
| ⑤ マネージャー会議の開催 | ⑥ サービス管理（提供）責任者会議 |

(2) 財政基盤

- | | |
|------------------|------------------|
| ① 地域活動支援センター事業収入 | ② 居宅介護事業収入 |
| ③ 日中一時支援事業収入 | ④ 特定相談支援事業収入 |
| ⑤ 障害児相談支援事業収入 | ⑥ 生活介護事業収入 |
| ⑦ 共同生活援助事業収入 | ⑧ 短期入所事業収入 |
| ⑨ 放課後等デイサービス事業収入 | ⑩ 就労継続支援 B 型事業収入 |
| ⑪ 児童発達支援事業収入 | ⑫ 移動支援事業収入 |
| ⑬ 寄付金等収入 | |

(3) 市・町受託金・補助金等

・地域活動支援センター事業	白石町	4,710,000 円
・日中一時支援事業	3市3町	6,076,808 円
・移動支援事業	3市3町	1,991,369 円

(4) その他の補助金・助成金等を積極的に申請して法人運営に活用しました。

・白石町手をつなぐ育成会	27,000 円
・特定求職者雇用開発助成金	350,000 円
・生きがい活動支援補助金（町社会福祉協議会）	50,000 円
・NHK 歳末たすけあい募金配分金	21,600 円
・白石町医療・介護・障害福祉事業者支援金	700,000 円
・新型コロナウイルス感染症包括支援補助金	2,762,000 円

7 利用環境の向上

- (1) コロナ禍、利用者の健康管理と施設の衛生管理に努めました。補助金を活用して玄関横の手洗い場の設置をはじめ非接触検温スタンドや低濃度オゾン発生装置、抗原検査キットのほか衛生管理に係る物品等を購入してウイルス感染防止対策を講じました。

(2) 就労継続支援 B 型事業所の工賃向上を目指して平均工賃月額 20,000 円以上を継続できたことで利用者の働く意欲に繋がっています。

(3) 児童発達支援事業の開始に伴い出入口スロープ部分にカラフルな門扉を設置して、児童の飛び出しによる事故防止対策を講じ、安心安全に出入りできるよう改善しました。

(4) 職員の研修や個人学習をバックアップすることにより個人のスキルアップから法人全体のスキルアップに繋げて利用者の処遇改善に努めました。

令和 2 年度は介護福祉士実務者研修をより受講しやすくするために当法人の多目的ホールを開放して 3 名が受講し、3 名とも介護福祉士の国家資格を取得しました。

今年度は、コロナ禍にあり三密を避けるために法人内、外の研修や活動に制限がありましたが、web 研修やリモート研修に挑戦しました。初めての参加形態でしたが、一つの研修を複数人で受講できることや、施設に居ながら学ぶことができるなど新しい発見があり、今後想定される研修に対応できる自信につながりました。



pixta.jp - 78482041



pixta.jp - 6464139



pixta.jp - 64628208

令和2年度 地域活動支援センター事業報告

1 事業運営基本計画

利用者が生まれ育った地域で、楽しく豊かに暮らすことが出来るよう、日中活動において、それぞれの障害特性に応じた排泄・食事・送迎等の必要な支援を実施しました。あわせて生産活動の機会の提供を通して就労への意欲を喚起し、社会との交流を促進するとともに、ひとりひとりの個性を尊重した事業経営に努めました。

2 利用者の処遇

利用者ひとりひとりの障害の程度や特性に応じた軽作業の内容を検討し、働くことの意義と楽しさを知ってもらうことで、心身の活性化と日常生活動作の向上に繋げる支援に努めました。

3 生産活動

生活介護と協力して手作りの貼絵カレンダーを作成し販売を行いました。

4 利用者の実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	23	17	39	34	0	32	37	28	19	7	37	50

年間延べ利用者数 323人 月平均利用者数 26.9人 1日平均利用者数 1.3人

5 健康管理

毎利用のはじめに体温と血圧の測定を行い、体調不良及び身体に変化がある場合は、施設内の看護師による指示、指導を仰ぎ健康管理に努めました。

6 防災計画

令和2年7月に水害を想定した避難訓練を、令和2年8月及び令和3年2月には火災を想定した避難訓練を実施しました。

7 日課

サービス提供時間（土・日・祭日を除く9：30から15：30）において適宜休憩をはさみながら軽作業に取り組んで頂き、利用者の体調等を考慮して作業内容を検討し、無理がない程度の日中活動を提供しました。

8 職員研修

内部、外部の研修等に積極的に参加して、職員会議等で伝達・報告する事により、事業所全体の資質の向上とサービス向上に努めました。

9 資金報告

令和2年度計算関係書類の通り通常の運営経費は市町からの補助金収入、利用者負担金で賄いました。

令和2年度 居宅介護事業報告

1. 基本業務の内容

利用者が自宅において、安心、安全に過ごすことができるように時間を厳守して訪問しました。保護者の就労等で、一人で留守番をしている利用者に対しては1日3回自宅を訪問して朝の支度や排泄、入浴等の身体介護及び調理等の家事援助を実施しました。

また、一人で病院等を受診できない利用者については、福祉有償運送車両を用いて通院の介助を行い、安全運転で目的地まで送るよう努めました。家族と顔を合わせる機会が少ない利用者には、家族と事業所間の連絡帳を作成して利用者の様子を報告するなど家族との連携に努めました。精神に障害を持つ方々の支援に困難を有する場面もありますが、その都度学びながら対応しています。

2. 利用者の処遇

利用者が出来ることは、自発的に行っていただけるように、自信が持てるような言葉かけに留意した支援を行いました。また、これまで過ごして来られた生活習慣を大切に、課題が見えた場合には、支援会議等で検討し、より良い支援につなげることで利用者に安心と信頼を得られるよう努めました。

3. 健康管理

毎回、サービスを利用の際に、本人もしくは家族に体調や生活面の様子を伺い、変化等がある場合は、記録に残しました。支援にあたっては新型コロナウイルス感染症予防対策をしっかり行いました。

4. 利用実績（人数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身体介護	4	3	4	5	4	6	7	7	6	4	5	6	61
重度訪問介護	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
家事支援	5	5	5	6	5	5	5	6	8	7	7	6	70
外出支援	10	11	14	12	13	15	12	14	16	16	10	13	156
通院	16	17	18	19	16	16	20	18	19	16	18	19	212
延利用人数	36	37	42	43	39	43	45	46	50	44	41	45	511

5. 移動支援

福祉有償運送により、通院及び外出等の支援を行ないました。令和2年度は、延べ1,727人（回）の利用があり、39,459km走行しました。

6. サービス提供時間

午前7時30分から午後7時30分の利用が大半でしたが、利用者がいつでも連絡できるよう専用の携帯電話を窓口として24時間体制を整備しました。

7. 資金報告

通常の運営費は、介護給付費、利用者負担金収入で賄いました。

令和2年度 生活介護事業報告

1 事業運営の基本方針

利用者が自立した日常生活または社会生活を営む事ができるよう、入浴、排泄および食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会を提供し、地域における生活の充実と社会的自立を支援するとともに、1人ひとりの個性を尊重した事業運営に努めました。入浴においては、個々の要望に沿えるよう支援し、安全かつ自立に繋がる支援を行いました。

2 生産活動

利用者による手作り貼絵カレンダーを、冬期に行っている物品販売事業に出品し、利用者の生産意欲の向上を促すことができました。

3 利用者の処遇

利用者の基本的人権を尊重し常に利用者の立場に立った支援を行いました。また心身の健康管理と維持、軽運動を取り入れ身体機能の向上にも努めました。

4 健康管理

毎利用時にバイタルチェック（検温・血圧測定・体調確認等）を施行し、体調不良及び身体に変化がある場合は看護師と協力しながら対応しました。また、嘱託医による月1回の往診、健康相談を実施しました。感染予防対策として日常の手洗いと室内の換気の励行、温度・湿度の調整をこまめに行いました。体温調節が難しい利用者には衣服等の調整を行い健康管理に努めました。新型コロナウイルス感染症対策として体温チェック表を各家庭に渡して、事業所でも朝・昼に測定し観察を行いました。特に手洗い・うがい・手指消毒・換気の励行、消毒液で窓・ドアノブ・床・机・椅子等清掃を行いました。また、昼食時はプラスチック板を設置し対面食事を止め間隔を置いて食べてもらいました。

5 防災計画

令和2年7月22日（水）午前11時より水害を想定した訓練を、令和2年8月21日（金）午前11時及び令和3年2月23日（火）午前11時より火災を想定した避難訓練を実施しました。

6 日課

月曜日から土曜日までサービスを提供し、朝のラジオ体操、水分補給や休憩をはさみながら軽作業と入浴を中心に日中を過ごして頂きました。個別支援計画に基づき一人ひとりの個性や特性に配慮して、課題に沿ったサービスの提供を行い、午後3時からは「帰りの会」で全員参加のゲームや踊りを実施しました。

7 職員研修

新型コロナウイルス感染症の影響で会場に行つての研修は難しい状況でした。研修への参加も減少する中で、3月6日（ZOOM研修にて）「きょうされん九州ブロック学習交流会」6分科会重度の仲間への支援・実践について発表を行いました。

8 資金計画

令和2年度計算関係書類の通り、運営費は介護給付費で賄いました。

9 利用実績

	月/区分	2	3	4	5	6	計	市町村別利用者数 (令和3年3月31日現在)		年齢別利用者数 (令和3年3月31日現在)	
								市町村	人数	年齢	人数
令和2年	4月	11	22	98	60	120	311	白石町	13	19~25	4
	5月	9	20	79	63	119	290				
	6月	10	21	101	69	131	332				
	7月	14	22	103	80	140	359				
	8月	12	19	93	79	130	333				
	9月	12	21	94	81	129	337				
	10月	13	22	79	86	160	360				
	11月	13	21	73	75	151	333				
	12月	12	21	78	81	141	333				
令和3年	1月	11	19	69	77	131	307	江北町	1	25~30	3
	2月	0	32	71	79	121	303				
	3月	0	36	80	86	142	344				
利用者延数(A)		117	276	1018	916	1615	3942	大町市	2	30~35	3
令和元年度(B)		117	391	1226	913	1381	4028				
増減(A-B)		± 0	-115	-208	+ 3	+234	- 86				
								嬉野市	1	44~50	2
										50~55	2
										55~60	2
										60~65	1
										計	17

※利用者の64%は障害支援区分5または6を有し、日常的にマンツーマンで対応をしています。

令和2年度 指定特定相談支援事業（障害者・障害児）報告

- 事業の目的である“常に利用者（児）の立場に立って、利用者（児）や家族が望む自立した日常生活又は社会生活ができるように、障害福祉サービス事業所等との連携を図り、利用者が暮らしやすい計画相談（サービス等利用計画・障害児利用支援計画）の提供の確保”に努めました。
- 特定相談支援事業所連の理念である“寄り添い、ともに歩く”を具現化できるように利用者（児）が関わっている様々な機関で、様子を見せていただいたりお話を伺いました。又、利用者（児）や家族等の願いや暮らしを実現できるような計画を立てて、支援を提供してくれる事業所等を探して繋げました。小学校に入学される方は4月の入学式前に関係者に集まってもらい移行支援会議を行いました。

●サービス等利用計画（18歳以上）作成件数及びモニタリング件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成	5	3	8	6	4	5	7	6	5	2	4	5	60
モニタリング	14	13	10	8	14	8	12	11	16	13	10	9	138
合計	19	16	18	14	18	13	19	17	21	15	14	14	198

※令和2年度 障害者計画相談登録者数

男性 32名 女性 21名 合計53名

●障害児支援利用計画（18歳未満）作成件数及びモニタリング件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成	5	9	5	11	9	9	12	14	7	5	11	15	112
モニタリング	25	32	28	10	13	27	12	20	23	18	14	21	243
合計	30	41	33	21	22	36	24	34	30	23	25	36	355

※令和2年度 障害児計画相談登録者数

男児 83名 女児 22名 合計105名

●職員研修その他

コロナ渦で研修会参加を控えたり、又、中止にもなりました。後半でウェブ研修が始まり、参加しやすくなりました。

研修内容	開催日
応用行動分析連続講座	11/14・1/16・1/30・3/13・3/27
相談支援部会	11/27
自立支援協議会	12/11
意思決定支援	3/9・3/11
その他の研修（障害児・者支援）	1/31・2/13・3/7・3/17
職員全体会議	12/23・1/27・3/24

令和2年度 共同生活援助事業報告

1 業務報告

入居者が安心して穏やかに暮らすことができるよう、家庭的な雰囲気作りに努めました。入居者の言葉に耳を傾け、コミュニケーションを図り、関係の構築に努めました。温かいホームで、楽しい共同生活を送る事が出来るよう個別のニーズに添うことを大切にしました。

個別支援として、買い物の支援や外出、外食等、入居者の希望を聞きながら実施したいと考えていましたが、コロナ禍の中で、実践できなかつたり、見合わせることも多く申し訳なかったと思います。

2 入居者の処遇

入居者の心身の状況や、ひとり一人の個性を尊重した個別支援計画を作成し、その計画に基づき日常生活上必要な身体的、精神的な支援をチームで実践しました。入居者の意向の把握に努め、出来るだけ希望に添いながら、自立支援に努めました。

3 健康管理

毎朝、バイタル測定を実施し、異常の早期発見に努めました。又朝、夕の献立を作成し、バランスの取れた消化の良い食事の提供に努めました。誤嚥防止や咀嚼力により個々に合わせた食事形態に配慮しました。また増加しがちな体重管理の為、野菜中心のメニューを作成し提供しました。年間を通じて新型コロナウイルス感染防止の為、手洗い、消毒、施設内の除菌作業を毎日行いました。

4 環境の整備

日頃から清掃、換気に努め清潔な環境で気持ち良く生活出来るよう配慮しました。衣類は毎日、リネンは毎週洗濯し快適な暮らしに向け努めました。

5 防災計画

防災計画に沿って年3回隣接する施設内他事業所と合同で、災害（火災2回・水害1回）を想定した避難誘導訓練を実施しました。（年2回夜間の避難訓練を実施しました。）避難に関わる必要物品や備蓄も買い揃え、定期的に確認をしています。

6 人材育成と専門性の向上

職員全体会議やスタッフ会議への参加を促し、個人のスキルアップと職員間で統一したケアが出来るように報告、連絡、相談に努めました。研修については、今年度は感染防止のため、県の研修も含め出席できませんでした。しかし、法人内での人事評価シートづくりが大変参考になり、自分たちのケアを見直す機会となりました。

7 研修参加

令和3年3月6日	23回きょうされん九州ブロックZoom研修
令和3年3月9日・11日	相談支援 意思決定支援Zoom研修

法人内研修（Zoom研修）

令和3年3月31日	チームワークの基礎理解 モチベーションの基礎理解
-----------	-----------------------------

8 入退居報告

入退居者	0	6床満床
------	---	------

令和2年度 短期入所事業報告

1 業務報告

利用者が安心して宿泊することができるよう、家庭的な雰囲気作りに努め、保護者や関係機関との連携を密にして自立に向けた支援に努めました。

2 利用者の処遇

利用者一人ひとりの心身の状況に応じ、日常生活上の必要な支援を考慮して利用者の健康の保持とADLの向上に努めました。利用者ごとに支援目標を定め、個々のニーズに添った支援が出来るよう職員はケアの統一に努めました。

3 健康管理

バランスと消化の良い食事の提供に努め、来所時と起床時の健康チェックを行い、体調の変化に留意しました。2年度は新型コロナウイルスの感染防止のため、手洗い、消毒に努め、施設内の除菌作業を毎日実施しました。

4 環境の整備

施設内の美化と利用者の身の回りの整理整頓に努め、衣類等は入浴後に洗濯しました。快適な環境で過ごせるよう換気、通気に気を配り空調の管理を行いました。

5 災害避難訓練の実施

防災計画に沿って年2回隣接する施設内他事業所と合同で、火災を想定した避難誘導訓練を実施しました。（夜間の避難訓練を実施しました。）

6 人材育成と専門性の向上

スタッフ会議や職員全体会議に参加して、個人のスキルアップと共に伝達研修や報告会を通して事業所全体の資質の向上とサービスの質の向上に努めました。2年度は感染予防のため外部の研修が中止となり、参加ができていません。

令和2年度 短期入所利用実績

月	利用者数	利用回数	利用延べ日数
4	15	50	101
5	18	53	107
6	16	48	103
7	18	47	105
8	19	41	93
9	17	47	101
10	19	49	98
11	18	51	99
12	18	50	101
1	16	49	99
2	17	48	97
3	19	55	108
合計	210	588	1212
平均	17.5	49	101
昨年度 実績	17.1	48.3	101

令和2年度 放課後等デイサービスはなという事業報告

1. 事業運営の基本計画

令和2年4月より新規利用児童が15名増えました。延べ契約者数が48名となり、より一層、適切な放課後等デイサービス計画の作成を行うため、アセスメント、放課後等デイサービス計画案、放課後等デイサービス計画会議、保護者への説明と同意というプロセスを遵守しました。平均利用児童数も増加したため、適切な職員を配置し、各々のニーズに応じた支援を行いました。また、利用児童にとって過ごしやすい環境を整えるため、活動の際にはグループ化を行うなどの配慮をしました。

2. 利用者の処遇

利用児童数に応じた基準職員の配置に加え、より手厚い支援を行うために加配の職員を配置しました。さらに、本年度は新型コロナウイルス感染予防のため、長期の間、学校が休校となりました。学校再開までの間は事業所を通常通り開所し利用ニーズに応えました。学校休業時には毎回行事を計画し、利用児童同士のコミュニケーションや社会性の向上を促す機会を提供しました。

3. 研修計画

人材育成を目的に児童発達支援管理責任者基礎研修に2名の職員を派遣しました。その他、各職能団体が主催する研修会においては、感染予防の観点から中止となり、参加することはできませんでしたが、法人内での全体会議（1回/月）は新型コロナウイルス感染状況に配慮しながら開催しました。

4. 健康管理

体温測定表を毎月配布し、保護者と共に健康管理に努めました。また、地域の感染状況に応じて、感染予防に関する留意事項の通知を適宜配布しました。来所時や食事前の手洗いの励行、午後の検温などを実施し感染対策を行いました。マスクを着用することが苦手な児童も利用されるため、接触頻度の高い備品や建具の消毒を毎日実施しました。

5. 防災計画

令和2年7月22日に水害を想定し、本体施設2階まで避難誘導訓練を実施しました。令和2年8月21日には放課後等デイサービスより火災が発生したという想定にて火災避難訓練を実施しました。また、令和3年2月23日には本体施設の厨房より火災が発生したという想定にて火災避難訓練を実施しました。

6. 日課

学校からの送迎後、バイタルチェック、排泄、手洗いをを行い、放課後等デイサービス計画に沿った課題や訓練を実施しました。また、施設敷地内での鬼ごっこや、メダカ取りなど自然の中で遊びました。休業利用時には行事を計画し、コミュニケーションなどの社会性の向上を促しました。

7. 実績

① 利用契約児童数

小学部	中学部	高等部
30名	6名	12名

② 利用実績児童数（令和2年4月～令和3年3月）

年 月	延べ利用者数	1日平均利用数
令和2年4月	439名	16.9名
令和2年5月	340名	13.1名
令和2年6月	452名	17.4名
令和2年7月	463名	17.1名
令和2年8月	417名	18.1名
令和2年9月	408名	16.3名
令和2年10月	411名	15.2名
令和2年11月	375名	15.0名
令和2年12月	427名	17.0名
令和3年1月	410名	17.0名
令和3年2月	393名	16.3名
令和3年3月	455名	16.8名



令和2年度 就労継続支援B型 事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターがたっこ 理念

(お) (も) (て) (な) (し)

美味しい弁当 もりだくさんの地域の素材 手をつなごう 仲間づくり 職場の輪
(心地の良い職場づくり)



事業運営の基本計画

一般就労が困難である利用者に対して就労の機会を提供し生産活動やその他の活動を通じて、ひとりひとりの個性を尊重した地域における生活の充実と社会的自立の支援に努めました。

★ 利用者の処遇

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	全体
利用者	開所日	26	26	26	27	23	26	27	25	25	24	24	27	306
	延べ人数	155	137	168	177	152	166	183	166	172	154	154	179	1,963
	1日平均	6	5	6	7	7	6	7	7	7	6	6	7	6

工賃	支払額	146,212	140,271	160,314	349,187	141,749	160,489	153,867	158,827	355,857	150,077	153,164	182,115	2,252,129
	月額工賃支給者数	8	7	8	8	8	9	8	8	8	8	8	9	97
	平均/月	18,277	20,039	20,039	43,648	17,719	17,832	19,233	19,853	44,482	18,760	19,146	20,235	23,218

※ひと月の就労日数が5日以上の利用者を集計した表 (7月・12月は賞与を含む)

工賃	総支払額	153,873	143,951	163,934	361,267	148,752	163,384	182,068	165,342	373,337	152,852	157,749	184,991	2,351,500
	月額工賃支給者数	10	9	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	118
	平均/月	15,387	15,995	18,215	36,127	14,875	16,338	18,207	16,534	37,334	15,285	15,775	18,499	19,928

※ひと月の就労日数が5日未満の利用者も入れて集計した表 (7月・12月は賞与を含む)

利用者の立場に立ち心身の健康保持と生産活動の能力向上に努め、2年度目標の平均工賃2万円以上を達成しました。

8月(スポーツ観戦)・3月(食事会)のお楽しみ会はコロナ禍の為、計画が立てられませんでした。

★ 生産活動

- ・手作り弁当事業（白石産の原材料にこだわった手作りの美味しい弁当）
お弁当の総数は27,066個で一日平均88個でした。
- ・受託事業（配食サービス・JA葬祭用ギフト包装作業）
配食の総数は9,908個で一日平均32.5個でした。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
弁当	個数/月	2,418	2,071	2,248	2,361	2,020	2,126	2,392	2,294	2,350	2,426	2,037	2,323	27,066	2,255
	1日平均	93	80	86	87	88	82	89	92	94	101	85	86	1,063	88
配食	個数/月	856	854	845	856	770	833	870	817	814	684	786	923	9,908	825
	1日平均	33	33	33	32	33	32	32	33	33	29	33	34	390	32.5

JA葬祭用ギフト包装作業を令和2年10月より始め、10月から令和3年3月までで4,200個を納品しました。

- ・自主製品事業（加工食品・手作り小物作成・販売）
- ・その他作業（空き缶・空きビン回収・選別等）
- ・自主栽培事業（5月～9月 きくらげ栽培）
（10月～4月 しいたけ栽培 野菜加工）

弁当事業では、月平均目標2,000個を達成し2,255個でした。配食サービスでは月1,000食を目指していましたが月平均で825食でした。
お客様のニーズに出来る限り対応し、安心・安全な弁当を提供しました。

★ 防災訓練

令和2年7月22日（水）午前11時より水害を想定した訓練を、令和2年8月21日（金）午前11時及び令和3年2月23日（火）午前11時より火災を想定した避難訓練を実施しました。

令和2年度児童発達支援事業ほっぷ・すてっぷ事業報告

ほっぷ・すてっぷの理念

子どもたちが持つ可能性や強みに着目し、

成功体験を積み重ねることでこころとことばを育てていきます。

1. 事業運営の基本方針

児童が日常生活における基本的動作を習得し、集団生活に適応することができるよう、児童の心身及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて、適切かつ効果的な指導及び訓練を行いました。

2. 利用児童の処遇

保育士、社会福祉士の専門職を含めた職員を配置し支援にあたりました。日常生活動作訓練や個別訓練、コミュニケーション能力の向上、社会性の向上等を身につけることへの支援を行いました。

3. 健康管理

保護者に児童の体調等を提供記録に記入して頂き、また迎えに行った際、保育園担任へ登園時からの体調等の聴取を実施しました。利用開始時には体温測定などのバイタルチェックを行いました。衛生管理面にも配慮し、来所後、食事の手洗い実施や、室内の換気などこまめに行いました。

新型コロナウイルス感染予防対策としては、各家庭にて来所前日の夜、来所日の朝の体温チェックにご協力を頂き、事業所でも朝と昼に体温測定を行いました。また、玩具や机などの備品は消毒を行い、清潔を保つように努めました。

4. 防災計画

令和2年7月22日(水)午前11時より水害を想定した訓練を、令和2年8月21日(金)午前11時及び令和3年2月23日(火)午前11時より火災を想定した避難訓練を実施しました。

5. 日課

保育園からの送迎後、バイタルチェック、朝の準備、排泄、手洗いを行い、個別支援計画に沿った訓練を実施しました。朝の会は年齢に応じた活動を行い、椅子に座る姿勢や前に出て発表をする事を学んでいきました。また個別訓練を行う事で、苦手な課題を克服できるよう支援しました。日常的基本動作に課題がある児童には、マンツーマンの支援を行う事で、一人でズボンの着脱ができるようになるなど少しずつできる事が増えてきました。

6. 研修参加実績

令和3年2月13日 冬季障害児保育研修会「保護者支援について」

7. 実績

① 利用契約児童数 契約児童総数16名

未満児（3歳以下）	年少児	年中児	年長児
4名	5名	7名	0名

② 利用実績児童数（令和2年4月～令和3年3月） 定員10名

年月	開所日	延べ利用児数	1日平均利用数
令和2年4月	21日	0名	0名
令和2年5月	18日	6名	0.3名
令和2年6月	22日	7名	0.3名
令和2年7月	21日	12名	0.5名
令和2年8月	18日	16名	0.8名
令和2年9月	20日	17名	0.9名
令和2年10月	22日	32名	1.4名
令和2年11月	19日	46名	2.4名
令和2年12月	21日	56名	2.6名
令和3年1月	19日	56名	2.9名
令和3年2月	18日	58名	3.2名
令和3年3月	23日	78名	3.3名

- ・子どもたちの強みを個別訓練の中で探していきました



- ・ゆっくりと関わる事で、日常的基本動作を一人で出来る子どもたちが増えました



- ・ハロウィンやクリスマス会など行事も楽しみました



令和2年度 日中一時支援事業報告

1 運営基本計画

利用者ひとりひとりの個性と家庭の教育方針を尊重し、生活習慣の確立及び機能の向上に心がけ、明るく楽しい施設運営に努めました。

2 利用者の処遇

温かい愛情をもって、すべての利用者を平等に処遇し、趣味の活動や娯楽を通して将来の自立に向けた生活習慣の指導・訓練とADLの向上に努めました。また学校休業日・土曜日・祝日の自宅送迎や、ショートステイ明けの朝には、うれしの特別支援学校までの送迎希望に対応しました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登校前支援	17	13	20	18	5	21	17	19	19	16	26	18	209
日中支援	48	47	69	58	41	56	48	46	31	23	42	43	552
生活介護後	71	49	62	59	47	56	59	72	69	67	76	87	774

3 環境整備

低濃度オゾン発生装置を設置し、新型コロナウイルス感染症予防に心がけ、施設内清掃と利用者周辺の整理整頓に心がけました。食事やおやつ前には手洗いを促し、手すり椅子などのアルコール消毒を励行するなど衛生管理に努めました。

4 防災計画

令和2年7月に水害を想定した、令和2年8月及び令和3年2月に火災を想定した、利用者を含めた避難誘導訓練を行いました。計画的に実行し、今後の対策と反省点などを職員全体で共有できました。

5 日課

事業の実施時間は午前7時から午後9時までとし利用者の保護者の都合により、その範囲内で伸縮し対応しました。利用時は趣味活動などを提供し余暇時間の充実を図りました。

6 職員研修

内部、外部の研修に積極的に参加し、職員全体会議で伝達、報告することにより事業所全体の資質の向上とサービスの質の向上に努めました。

7 資金報告

令和2年度収支計算書の通りで、通常の運営経費は市町からの委託費収入、利用者負担金等で賄いました。

令和2年度 蓮の実ファミリー会事業報告

1. 報告

開催年月日	人数	内容
第8回(5月)	0人	コロナ感染拡大防止の為中止
第9回(6/30)	15人	1年生の親のみで開催。自己紹介、座談会(学校に入学してからの情報交換等)
第10回(9月)	0人	コロナ感染拡大防止の為中止
第11回(11/19)	7人	自己紹介、座談会(中学進路について等)
第12回(1月)	0人	コロナ感染拡大防止の為中止
第13回(3/18)	9人	自己紹介、座談会(園や学校での子供の様子、中学・高校進路について等)

※ コロナ感染拡大防止の為、中止もありましたが、同じ境遇の親同士で悩みを共有する事で、子育てに対する不安の解消となり、情報交換の場、親同士の交流の場となりました。